

道徳通信かがわ

第44号

令和4年10月31日(月)

香川県教育委員会事務局

義務教育課

「一人一人が輝く授業づくり」 —坂出市立松山小学校 公開授業—

9月29日(木)、坂出市立松山小学校において「一人一人がかがやく授業づくり」を研究主題として道徳科の研究授業を行いました。

【公開授業 第1学年「あぶらの出なくなった岩」(坂出市立松山小学校 山西由里子教諭)】

「周りの人と共に素敵な生活を送るために大切なことは何かを考える」がポイントでした。授業者の山西先生は、導入でスポーツフェスティバルの写真を用い、ダンスが楽しかったことや、みんなで力を合わせてがんばったことを確認しました。

教材には、「わたしたちのふるさとかがわ」(香川県小学校道徳教育研究会作成教材)を活用し、内容理解に向けては、山西教諭が作成した紙芝居を用い、主人公の心情を視覚的に捉える工夫が見られました。

役割演技では、意図的に主人公の父親や村人の立場で演技するよう指示しました。父親や村人から主人公に向けた助言を考えることは、本時の中心課題である「クラスのなかまと素敵な生活を送るために大切なこと」というテーマに対し、自分のこれまでの言動を客観的に見つめなおす手立てとなりました。振り返りでは、「わがまを言わない」「教室の本棚の整理整頓やトイレのスリッパを並べる」等、これまでの学校生活から、だれもが素敵な生活を送るために自分が意識し、実践しようと決意しました。最後は、ロイロノートを活用し、自分のよさ(赤色のカード)とがんばりたいこと(青色のカード)から子供たちがいずれかを選択して記述し、一覧表示で共有しました。



【授業後の検討会(香川大学 准教授 清水顕人 氏)】

(1) 「役割演技」について

- ① 動作化することで、教材に登場する人物の動きや言葉を模倣して、理解を深める。
→動きや言葉を模倣することで、どんな気持ちでしたか。
- ② 役割演技することで、児童に特定の役割を与えて即興的に演技する。
→役割演技を行う「目的」を明確にし、即興的な演技を促すことが大切である。
→演技した児童たちだけでなく、それを見ている周りの児童の感じたことや考えたことを表出させる。
- ③ 役割演技を行うときは、始めと終わりを明確にするとよい。(演じる「役割」と「自分」とのメリハリ)

(2) ふるさと教材について

- ① 「新ふるさとの心」(県教委HPよりダウンロード可)
 - ② 「ふるさと香川」(県教委HPよりダウンロード可)
→古くから伝わる事柄の持つ価値に気付き、自己とつなげて考えることができる。
- ※ 読みきかせや読書タイムなど、ちょっとした教師の声かけや環境整備で、教材と主体的に関わらせる。

(3) ICTの効果的な活用について

- ① 児童が苦手意識なく、自ら進んでタブレットを活用できている。(教師が積極的に活用しようとしている)
- ② 発表の苦手な児童も書くことで表現の場が確保できる。
→ICTの活用によって、児童が得意な表現形式を選択できる。その後の交流を促すこともできる。